

令和5年度「和歌山県結婚・子育て意識調査」調査結果概要

1. 調査の目的

結婚や子育てに関する県民の意見やニーズを把握し、今後のこどもに関する施策をより効果的に推進する。また、和歌山県（以下、「県」という。）が策定する「和歌山県こども計画」の基礎資料とする。

2. 調査の概要

(1) 調査の種類及び概要

	調査の種類	調査対象	対象抽出方法	調査方法
ア	結婚に関する調査	20歳～39歳の県内在住者 3,000人	市町村別、年齢層別、男女別に住民基本台帳から無作為抽出	郵送により調査票を配布し、郵送又はインターネットで回答
イ	子育てに関する調査	・ 県内在住の保育所等に通所する年少児の保護者 6,000人 ・ 県内在住の小学3年生の保護者 7,000人	全数調査	保育所等や小学校を通じて配布し、郵送又はインターネットで回答

(2) 調査期間

- ア 結婚に関する調査 令和5年10月2日～10月31日
イ 子育てに関する調査 令和5年10月13日～11月6日

(3) 回収数（率）

- ア 結婚に関する調査
・ 回収数：966人（郵送359人、Web607人）
・ 回収率：32.2%
- イ 子育てに関する調査
・ 回収数：5,454人（郵送2,809人、Web2,645人）
・ 回収率：42.0%

3. 調査項目

- ア 結婚に関する調査
- (ア) 基礎情報
 - (イ) 婚姻や子供についての意向
 - (ウ) 婚活についての意向

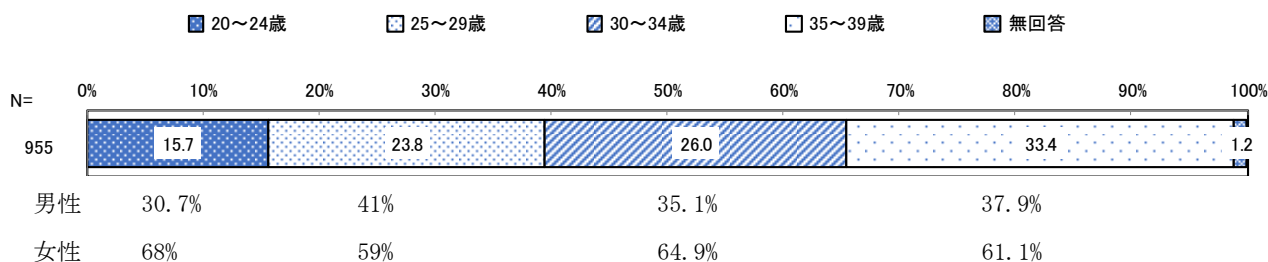
- (エ) 家事・育児についての意向
 - (オ) 妊娠・出産についての意向
 - (カ) 自由意見等
- イ 子育てに関する調査
- (ア) 基礎情報
 - (イ) 子育てについての意向
 - (ウ) 家事・育児についての意向
 - (エ) 妊娠・出産についての意向
 - (オ) 自由意見等

4. 調査結果概要

(1) 結婚に関する意識調査

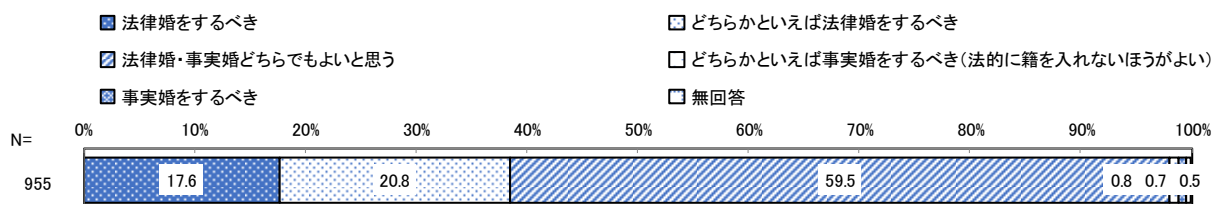
ア 回答年代と性別

年代について、「35～39歳」が33.4%で最も高く、次いで「30～34歳」が26.0%、「25～29歳」が23.8%となった。



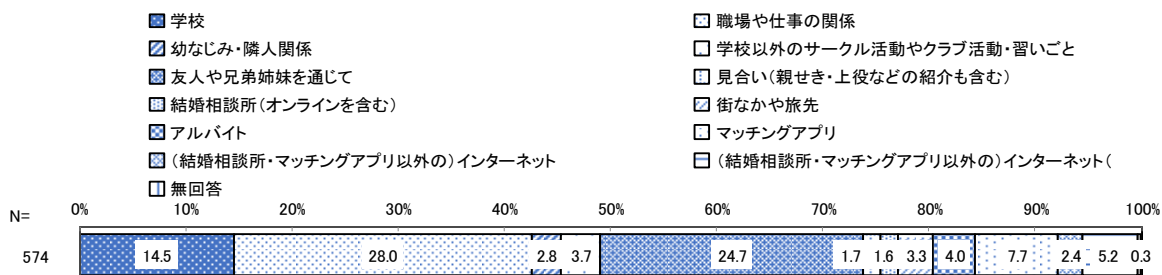
イ 結婚観

法律婚と事実婚・内縁に対する考えについて、「法律婚・事実婚どちらでもよいと思う」が59.5%で最も高く、次いで「どちらかといえば法律婚をするべき」が20.8%、「法律婚をするべき」が17.6%となった。



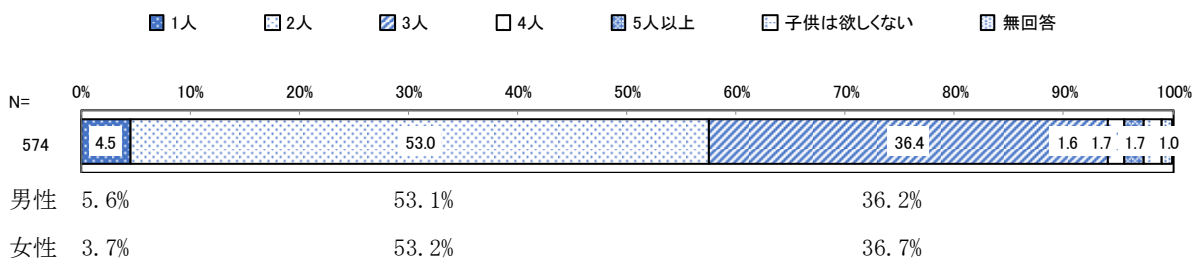
ウ 結婚相手と知り合ったきっかけ

結婚相手と知り合ったきっかけについて、「職場や仕事の関係」が28.0%で最も高く、次いで「友人や兄弟姉妹を通じて」が24.7%、「学校」が14.5%となった。



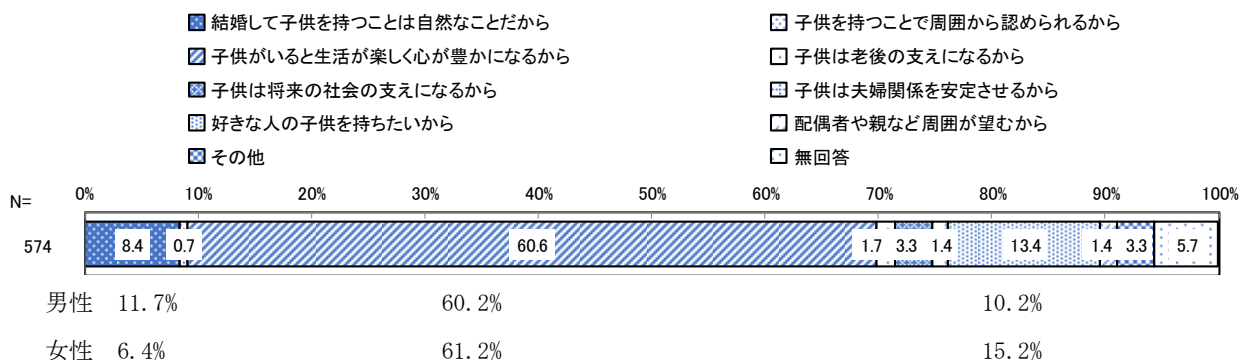
エ 理想的だと思う子供の数

理想的だと思う子供の数について、「2人」が53.0%で最も高く、次いで「3人」が36.4%、「1人」が4.5%となった。



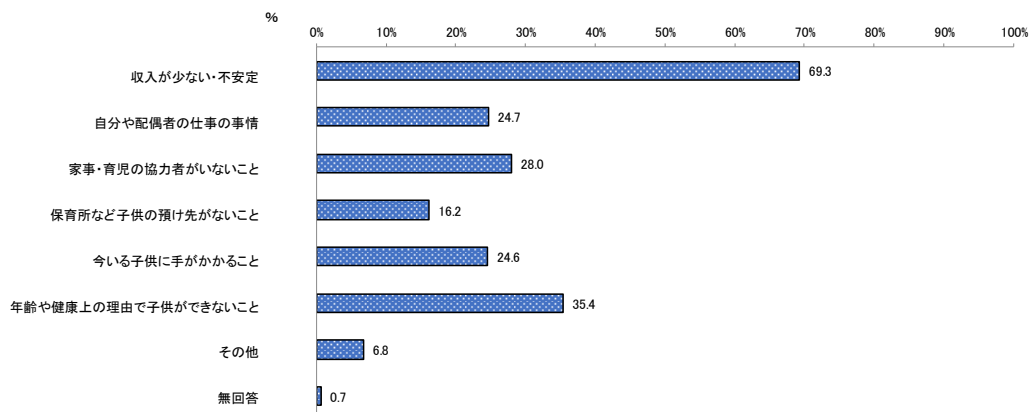
オ 子供を持ちたいと思う最も重要な理由

子供を持ちたいと思う最も重要な理由について、「子供がいると生活が楽しく心が豊かになるから」が60.6%で最も高く、次いで「好きな人の子供を持ちたいから」が13.4%、「結婚して子供を持つことは自然なことだから」が8.4%となった。



カ 理想の数の子供を持ってない可能性

今後、1人以上の子供を生む場合、理想とする子供の数が、結果的に持てない時の原因について、「収入が少ない・不安定」が69.3%で最も高く、次いで「年齢や健康上の理由で子供ができないこと」が35.4%、「家事・育児の協力者がいないこと」が28.0%となった。



課題・方向性

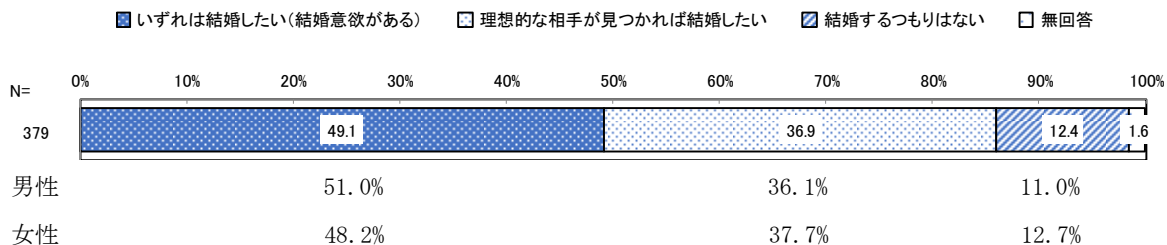
未婚者に調査した結果、エ、オから子供を持つことについて、2人や3人の複数人を持ちたいと思い、その理由は子供がいると生活が楽しく心が豊かになるとの前向きなものである。

にもかかわらずその子供の数を持ってないとすれば、カにあるように収入の不安定、家事・育児の協力者がいないと不安に思っている。

このことから、就労支援等による収入の安定や家事・育児の夫婦相互協力の推進・啓発が必要と考えられる。

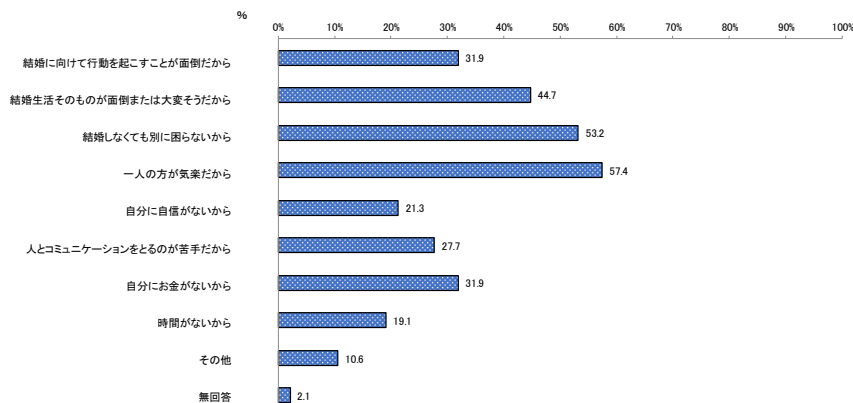
キ 今後の結婚以降

今後の結婚意向について、「いずれは結婚したい（結婚意欲がある）」が49.1%で最も高く、次いで「理想的な相手が見つければ結婚したい」が36.9%、「結婚するつもりはない」が12.4%となった。



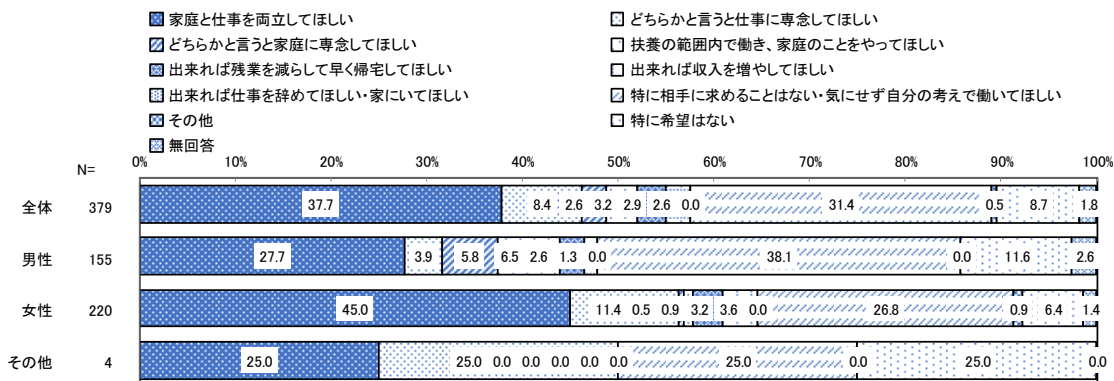
ク 結婚をするつもりがない理由

結婚するつもりがない理由について、「一人の方が気楽だから」が 57.4% で最も高く、次いで「結婚しなくても別に困らないから」が 53.2%、「結婚生活そのものが面倒または大変そうだから」が 44.7% となった。



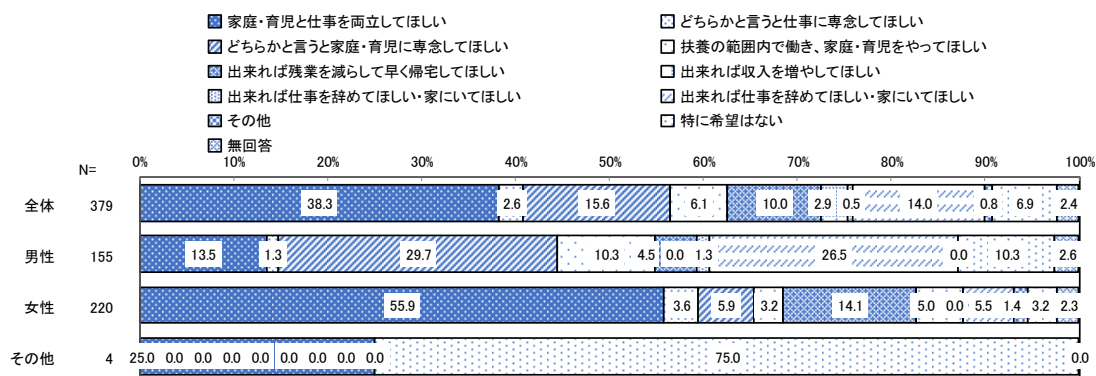
ケ 結婚後、子供がいない時、配偶者にはどのような形で仕事に向き合ってほしいか

〈男性〉では「家庭と仕事を両立してほしい」が全体よりも 10.0 ポイント低く、「特に相手に求めることはない・気にせず自分の考えで働いてほしい」が全体よりも 6.7 ポイント高くなっている。〈女性〉では「家庭と仕事を両立してほしい」が全体よりも 7.3 ポイント高くなっている。



コ 第1子が生まれた後、子供が2~3歳の頃、配偶者にはどのような形で仕事に向き合ってほしいか

〈男性〉では「家庭・育児と仕事を両立してほしい」が全体よりも24.8ポイント、「出来れば残業を減らして早く帰宅してほしい」が全体よりも5.5ポイント低くなっている。一方、「どちらかと言うと家庭・育児に専念してほしい」が全体よりも14.1ポイント、「出来れば仕事を辞めてほしい・家にいてほしい」が全体よりも12.5ポイント高くなっている。〈女性〉では「家庭・育児と仕事を両立してほしい」が全体よりも17.6ポイント高くなっている。一方、「どちらかと言うと家庭・育児に専念してほしい」が全体よりも9.7ポイント、「出来れば仕事を辞めてほしい・家にいてほしい」が全体よりも8.5ポイント低くなっている。



課題・方向性

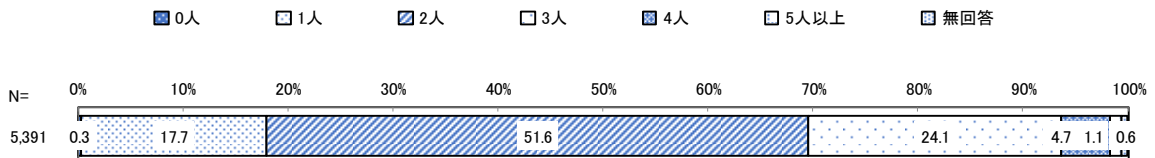
配偶者の家庭と仕事のかかりについて、ケ・コから、男性は子供がいない時は特に相手に求めることはないが、子供が生まれると家庭・育児に専念してほしいと相手に思う傾向がある。女性は子供が生まれる前後いずれも家庭と仕事を両立してほしいと相手に思う傾向があり、男女で考えに差がある。この点、先述の理想の子供を持たない理由の「家事育児の協力者がいないから」につながると考えられる。

このことから、就労支援等による収入の安定や家事・育児の夫婦相互協力の推進・啓発が必要と考えられる。

(2) 子育てに関する意識調査

ア 生まれた子供の人数

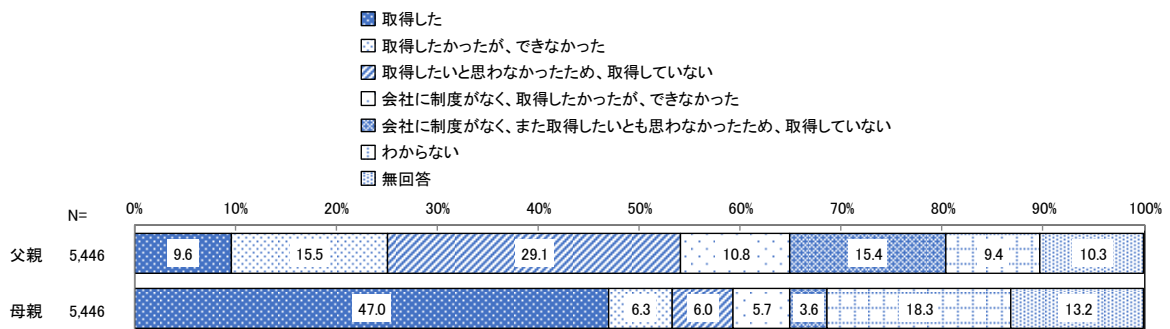
子供の人数について、「2人」が51.6%で最も高く、次いで「3人」が24.1%、「1人」が17.7%となった。



イ 育児休業の取得経験

育児休業を取得したことがあるかについて、父親では、「取得したいと思わなかったため、取得していない」が29.1%で最も高く、次いで「取得したかったが、できなかった」が15.5%、「会社に制度がなく、取得したかったが、できなかった」が15.4%となった。

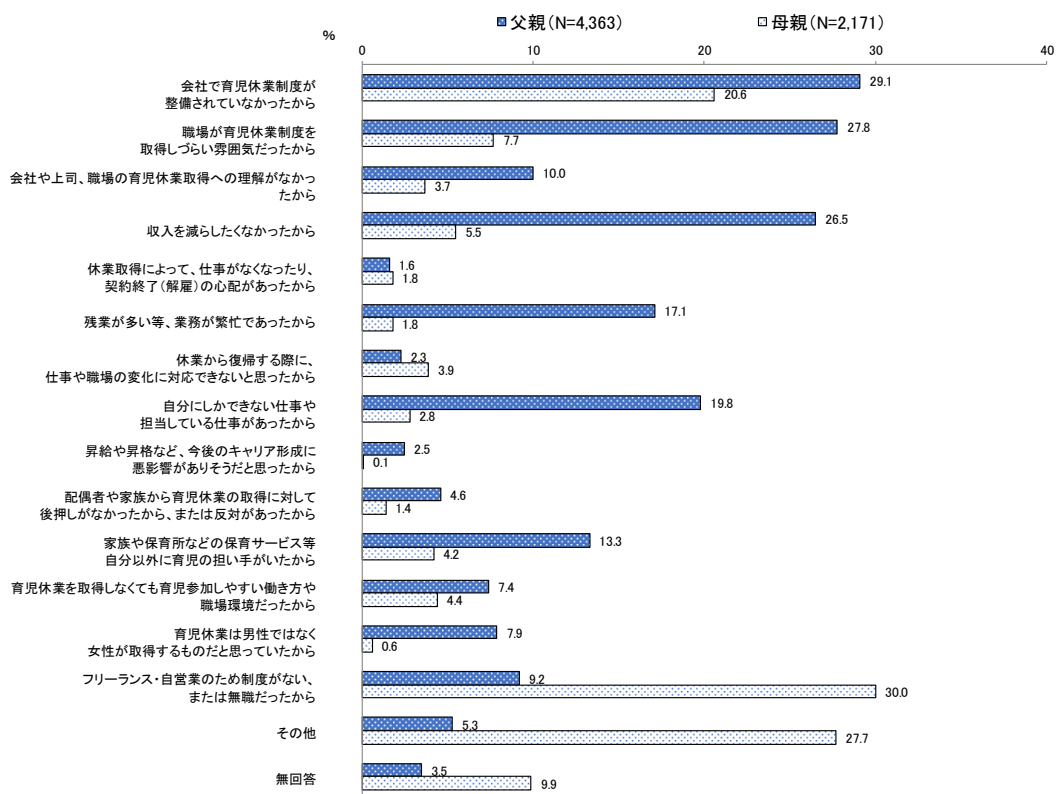
母親では、「取得した」が47.0%で最も高く、次いで「わからない」が18.3%、「取得したかったが、できなかった」が6.3%となった。



ウ 育児休業を取得しなかった理由

育児休業を取得しなかった理由について、父親では、「会社で育児休業制度が整備されていなかったから」が29.1%で最も高く、次いで「職場が育児休業制度を取得しづらい雰囲気だったから」が27.8%、「収入を減らしたくなかったから」が26.5%となった。

母親では、「フリーランス・自営業のため制度がない、または無職だったから」が30.0%で最も高く、次いで「会社で育児休業制度が整備されていなかったから」が20.6%、「職場が育児休業制度を取得しづらい雰囲気だったから」が7.7%となった。



課題・方向性

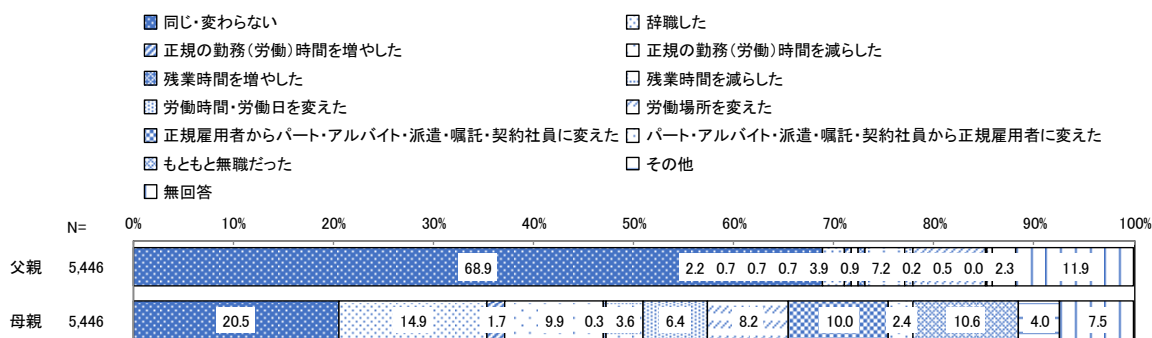
育児休業を取得した父親の割合は著しく低く、取得したいと思わなかった父親が多い。また、育児休業を取得しづらい職場の雰囲気があると感じている父親が多い。この点、先述・後述の理想の子供を持たない理由の「家事育児の協力者がいないから」につながると考えられる。

このことから、男性育児休業取得の推進、育児休業の職場理解が必要と考えられる。

エ 第1子が生まれる前と現在の働き方

第1子が産まれる前と現在の働き方について、父親では、「同じ・変わらない」が68.9%で最も高く、次いで「労働場所を変えた」が7.2%、「残業時間を減らした」が3.9%となった。

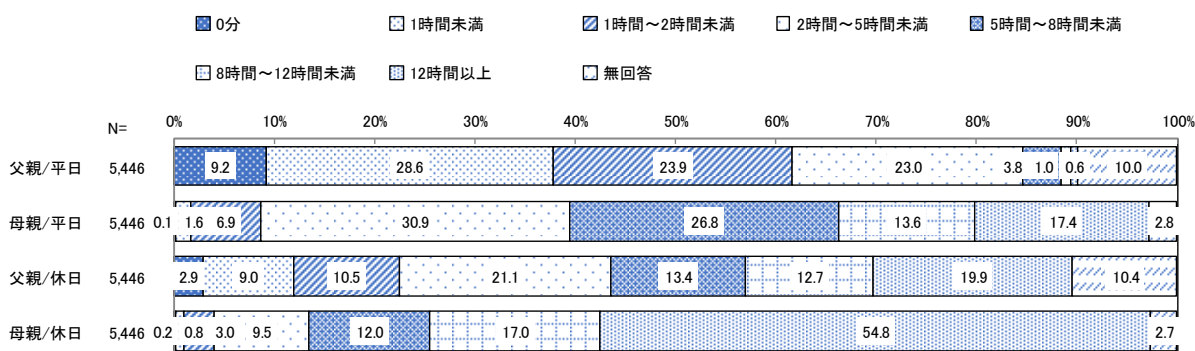
母親では、「同じ・変わらない」が20.5%で最も高く、次いで「辞職した」が14.9%、「もともと無職だった」が10.6%となった。



オ 子供の世話にかかる1日の配分時間

同居しているお子さま全員の世話に係る1日の配分時間について、父親では、平日は「1時間未満」が28.6%で最も高く、次いで「1時間～2時間未満」が23.9%、「2時間～5時間未満」が23.0%となった。休日は、「2時間～5時間未満」が21.1%で最も高く、次いで「12時間以上」が19.9%、「5時間～8時間未満」が13.4%となった。

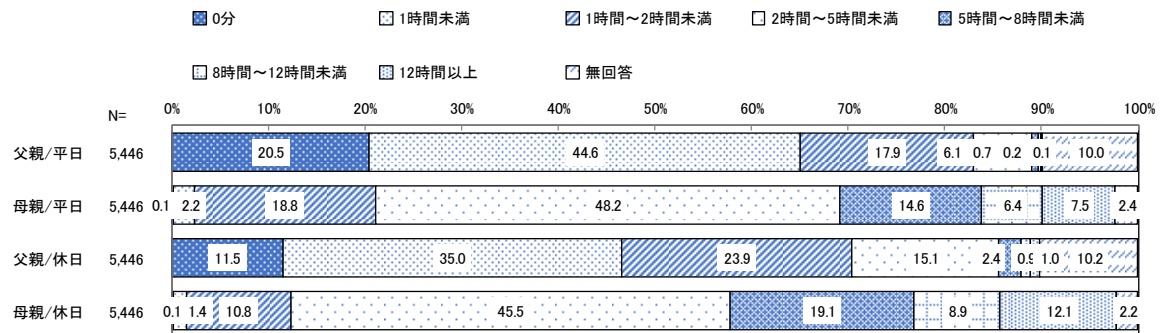
母親では、平日は、「2時間～5時間未満」が30.9%で最も高く、次いで「5時間～8時間未満」が26.8%、「12時間以上」が17.4%となった。休日は、「12時間以上」が54.8%で最も高く、次いで「8時間～12時間未満」が17.0%、「5時間～8時間未満」が12.0%となった。



カ 家事にかかる1日の配分時間

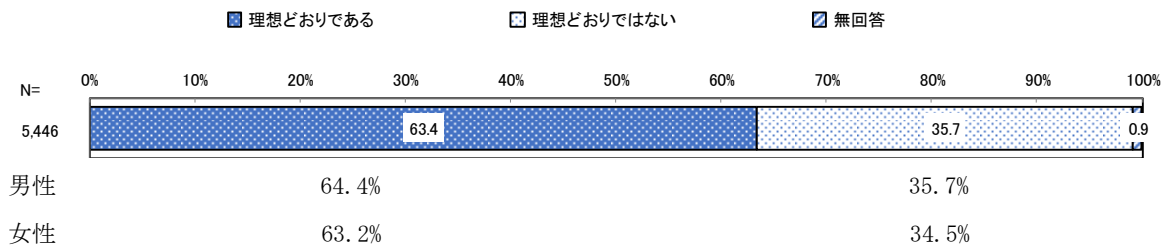
家事に係る1日の配分時間について、父親では、平日は、「1時間未満」が44.6%で最も高く、次いで「0分」が20.5%、「1時間～2時間未満」が17.9%となった。休日は、「1時間未満」が35.0%で最も高く、次いで「1時間～2時間未満」が23.9%、「2時間～5時間未満」が15.1%となった。

母親では、平日は、「2時間～5時間未満」が48.2%で最も高く、次いで「1時間～2時間未満」が18.8%、「5時間～8時間未満」が14.6%となった。休日は、「2時間～5時間未満」が45.5%で最も高く、次いで「5時間～8時間未満」が19.1%、「12時間以上」が12.1%となった。



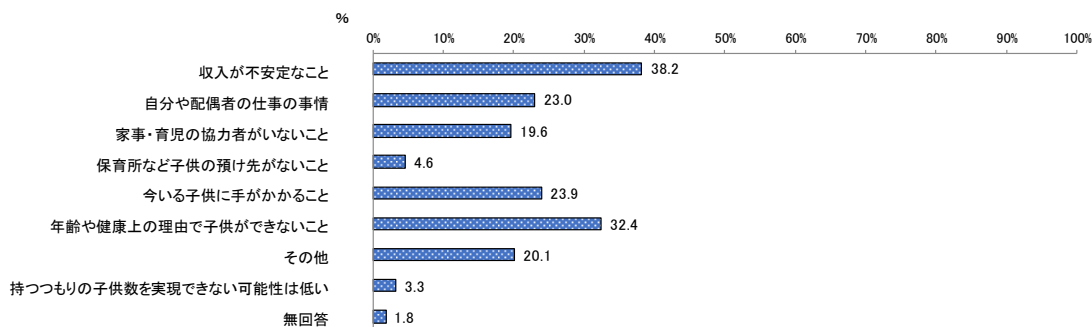
キ 理想的な子供の数を現実に持つことができているか

理想的な子供の数を、現実に持つことができているかについて、「理想どおりである」が63.4%、「理想どおりではない」が35.7%となった。



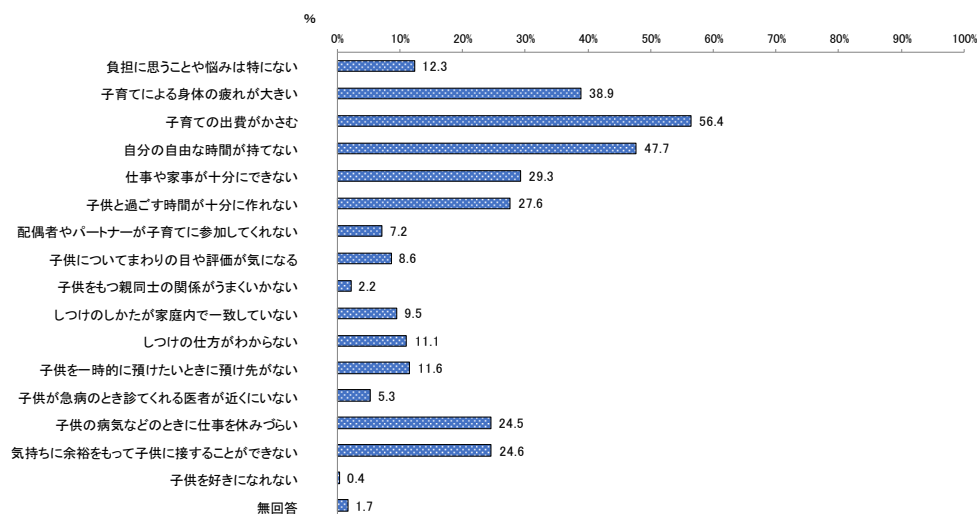
ク 理想的な子供の数を現実に持つことができていない原因

理想的な子供の数が現実に持てていない原因について、「収入が不安定なこと」が38.2%で最も高く、次いで「年齢や健康上の理由で子供ができないこと」が32.4%、「今いる子供に手がかかること」が23.9%となった。



ケ 子供を育てていて負担に思うことや悩み

子供を育てていて負担に思うことや悩みについて、「子育ての出費がかさむ」が56.4%で最も高く、次いで「自分の自由な時間が持てない」が47.7%、「子育てによる身体の疲れが大きい」が38.9%となった。



課題・方向性

子供が生まれる前と後では、父親は働き方はほとんど変わっていないが母親は辞職・正規からパートへの変更等何らかの変更を行っている。また、家事・育児にかかる1日の配分時間も父親は1時間未満が多く母親より短時間の傾向がある。

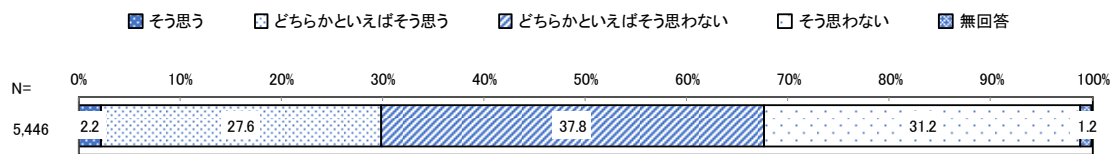
このことが、クの理想的な子供の数を現実に持つことができていない理由「家事・育児の協力者がいない」「自分や配偶者の仕事の事情」につながっていると考えられる。また、

ケの子供を育てていて負担に思うことや悩みの「自分の自由な時間が持てない」「子育てによる身体の疲れが大きい」にもつながっていると考えられる。

このことから、父親の育児参加の意識改革・働き方改革が必要と考えられる。

コ 日本の社会は結婚、妊娠、子供・子育てにやさしい社会だと思うか

日本の社会は結婚、妊娠、子供・子育てにやさしい社会だと思うかについて、「どちらかといえばそう思わない」が 37.8%で最も高く、次いで「そう思わない」が 31.2%、「どちらかといえばそう思う」が 27.6%となった。



サ 子育てにおける周知や社会環境に期待すること

子育てにおける周囲や社会環境に期待することについて、「子供が安全で住みやすい地域」が 75.2%で最も高く、次いで「子育ての大変さへの理解」が 53.9%、「行政支援の充実」が 52.9%となった。

